

# マイグレーション



我々のパソコンもやや老化が目立つようになりました。  
ウィンドウズの起動は遅くなり、昔のようにフリーズはしないまでも、作業の途中でOSが中断してしまったり、回線接続が不具合になったり、待機時間の長いことが目立ちます。  
新しいOSの登場が待たれるわけですが、それまでには今後1年間くらいは老体に鞭打って、或いはなだめすかして愛機を使いこなさねばなりません。

同時にいずれはやって来る「引越し」或いは「マイグレーション」には、それなりの準備が必要であり、普段の心掛けも大切です。  
はたまた何時起こるか判らないクラッシュに備えてのバックアップという意味合いもあります。  
今月は「マイグレーション」に備えての、アーカイブの保存・確保について考えてみたいと思います。

## 1) アーカイブの確認

長年使って来たパソコンのハードディスクには無数のファイルが残されています。現在使っているパソコンの代替わりに当たって、今のうちにアーカイブの整理・確認とそれらの移動の準備をせねばなりません。

つまり引越し荷物の整理・確認が必要です。

### アーカイブ

別名：書庫 【英】archive

アーカイブとは、IT用語としては、複数のファイルやデータをひとまとめにして保存している状態や場所のことである。もともとの英語は「公文書」や「文書館」などのような意味を持っており、そのため「書庫」と呼ばれることも多い。

一般的な意味でのアーカイブは、複数のファイルを一箇所にまとめて保存している状態を指し、特にファイル圧縮ソフトによって一つの圧縮ファイルに変換された状態になっているものを指すことが多い。ファイルをアーカイブとして保存することによって、ファイル管理を容易にすることができる。圧縮を施していれば、より少ないデータ量で保存やネットワーク上での受け渡しを行うことができる。

複数のファイルを圧縮アーカイブに変換するソフトウェア（ファイル圧縮ソフト）は、アーカイバと呼ばれることも多い。



私の場合パソコンの中に在る Documents & Settings には、データファイルが 18.9GB, 画像ファイル 15.4GB 合計約 35GB 程度のデジタル・ア

一カイクがありますので、これを適切に分類・整理して、保管し将来の新機に移動することが求められるわけです。

註： 場合により、使い慣れた環境そのものをすべて丸ごと引越したいということもあるでしょう。

つまり、これまで使って来たソフトウェア（アプリケーション・ファイル）のすべてを、そっくり新しいパソコンに移行したいという考え方で、しかし古いソフトウェアのすべてを **Program File** からコピーしても、新しいOSの環境でそのまま使えるかどうかは解りません。

新しいパソコンに古いOSごと丸ごとそっくりすべてを移行しようというのは、マイグレーションではなく、エミュレーションということになります。これはあまり得策とは思えないので、この際考慮外とします。



## 2) 引越し道具の選択

パソコン内データのお引越しには、様々なメディアが考えられます。それぞれに扱いの簡便さ、容量、転送速度、メディア自体の保存問題など、データの量に応じて判断することが必要です。一応選択肢を列挙してみますと、

### 選択1. 3.5 インチ FD(フロッピーディスク)

読み書き両用としては他の媒体と比べて汎用性や手軽さは抜群だが、読み書き速度は格段に遅く、保存容量も1.4MB、耐久性も低い。強い磁石を近づけるとデータが消えてしまう。非常にお手軽だが、大事なデータのマスタ保存には向いていない。

### 選択2. 3.5 インチ MO(光ディスク)

CD-R や DVD-R に似ているが、一回り小さくフロッピーディスクと同じ大きさで、硬い保護ケースに包まれていて、剥き出しの CD-R や DVD-R とかとは違い、キズやホコリが付きにくい。耐久度も保護ケースのおかげで CD-R より良い。MO1枚の容量は、CD1～3枚分。比較的手軽な保存媒体の中では、最も耐久度(保護ケース付きという意味で。大事なデータの長期保存や、頻繁にデータの書き換えをするなら、おすすめである。ただし、MOドライブはCDやDVDのようにパソコンに標準で付かないので、別途買う必要があったが、USBの普及により、標準装備で接続可能となった。

### 選択3. CD-R/RW

書き換えは不可能。パソコンなら大抵 CD ドライブが付いているので、この形式で保存すれば、他のパソコンで容易に読むことができるので、汎用性には優れている。書き換えできる CD-RW というのもあるが、耐久性を考えると頻繁な書き換えには向いていない。

### 選択4. DVD-R(またはDVD+R)、DVD-RAM

手軽さはCDとほぼ同じだが、保存容量が4.7GBとCDの5倍以上はあるので、容量が必要な動画保存に向いている。但し比較的新しいメディアなので、書き込みドライブが古い方のマシンに着いていなければ、使えない。

### 選択5. メモリーカード

コンパクト・フラッシュ、スマート・メディア、メモリー・スティック、SDメモリーカード、ミニ・SDカード、マイクロ・SDカート、と、正に百花繚乱である。容量の増大、価格の低下は急速に進んでおり、簡便な取扱ができる。

但し、カードのスロットが古いパソコンには付いていないので、リーダライタの設置が必要となる。

## 選択6. USBフラッシュメモリー

最近流行のメディアで容量も漸増して16GBまで、価格も非常に廉価になって、非常にお手軽な方法である。

何よりもドライブを必要としない、ホットプラグ方式で抜き差し自由という利便性は他に抜きん出ている。

## 選択7. 外付けHD(ハードディスク)

比較的手軽な保存媒体として、最高1TB(テラバイト)と大容量であり、読み書き速度は、CD、DVDよりも格段に早い。大量のデータをすばやく読み書きする場合に向いている。

註： 上記のメディアは引越し道具として数え上げたけれども、データのバックアップ保存手段としても考えることができます。

但し、これらすべては永久保存が可能ではないどころか、長期保存としても問題が無いわけではないこともよく理解せねばなりません。

つまり、デジタルデータの長期保存のメディアとしては現在確立された方法は皆無であることを、認識していなければならないということです。

### 3) 最適のメディアは外付けハードディスク

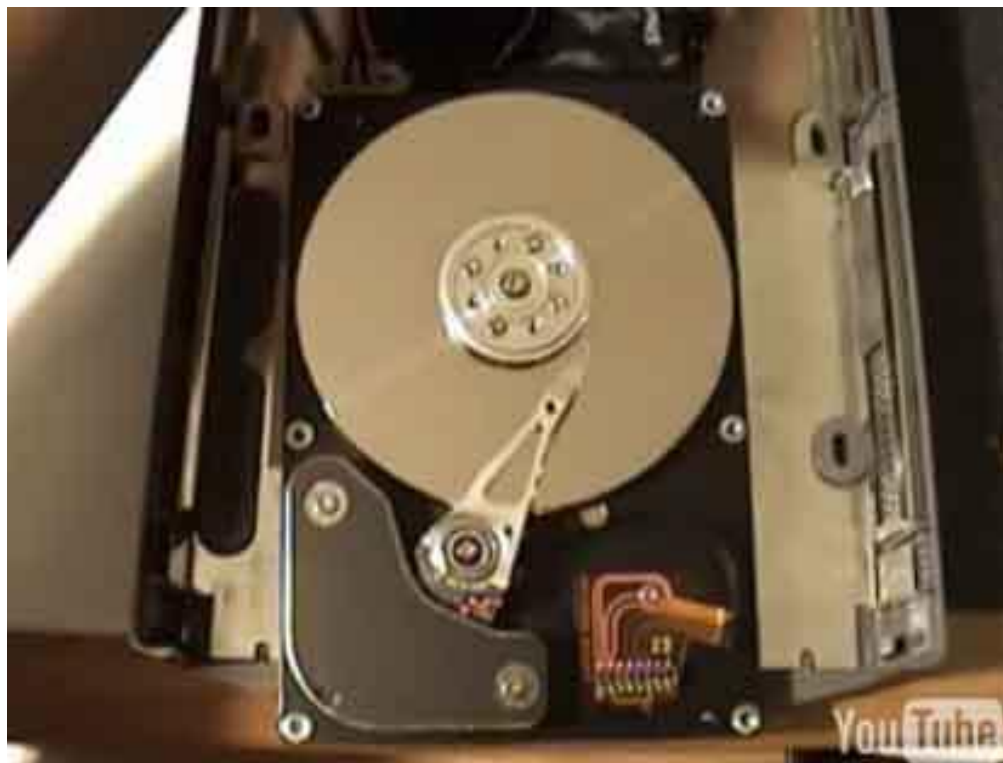
私が提唱する最適のマイグレーション・メディアは、外付けハードディスクです。

そして、その価格も急速に低下しているのも嬉しいことで、今や、あまり悩まずに大型の引越し道具を購入することが出来るのです。

#### 外付けハードディスクとは

ハードディスク＝ハードディスクドライブ(HDD)とは、コンピュータの補助記憶装置のひとつで、プラッタと呼ばれるディスクが回転し、ヘッドと呼ばれるレコードの針のようなものでプラッタに対しデータの読み込み・書き込み

を行うという構造になっています。基本的にパソコンに内蔵されているハードディスクと同じものです。



外付けHDDとは、ハードディスクドライブがケースに収められ、USBやSCSIといったインターフェースを用いてケーブルでパソコンと接続するタイプのものを言います。

内蔵されているものは、パソコン同士をネットワークで繋がない限りハードディスクを複数のパソコンで共有することはできませんが、外付けの場合、ケーブルを抜き差しすれば簡単に別のパソコンで使用することができますし、ポータブルタイプなら持ち運びも便利。また、LAN接続タイプのものであれば、HDDをネットワークに組み込むことでケーブルを抜き差ししなくても複数のパソコンで共有できるなど、様々な使い方ができます。

## 外付けハードディスクの種類

### スタンダードタイプ

一般的な外付けハードディスクです。パソコンとはUSBやSCSI等のインターフェースを用いてケーブルで接続します。大きさは辞書1冊くらいのものが多く持ち運びには不便ですが、容量も100～2,000GBと大きく、パソコンのバ

ックアップを取ったり音楽データを保存したりと、様々な用途で利用することが可能です。

#### ポータブルタイプ

持ち運びに便利などでも小さな外付けハードディスクで、中にはポケットに入れられるものや、落としても壊れない耐久性の高いものなどがあります。小さいといってもその容量は1TBまでありますので、データの簡易的なバックアップなどにも利用できます。しかし、ポータブルタイプの魅力はなんと言ってもその大きさ。データを持って外出することが多い方にはピッタリです。

#### LAN 接続タイプ

パソコンとケーブル接続するのが一般的な外付けハードディスクですが、中には LAN で接続するタイプも。スタンダードタイプ、ポータブルタイプと比べかなり効果で、無線・有線問わず家庭内に LAN が引かれていないと接続できませんが、容量は250～4TBと大容量。ネットワークを介して複数のパソコンで共有できるのが大きな魅力です。

### ディスクの回転数「rpm」

様々なタイプがある外付けハードディスク。購入前に自分の環境にあったタイプや容量を検討される方がほとんどかと思いますが、意外とチェックしてない、だけど結構重要というポイントがあります。それがディスクの回転数。

#### ディスクの回転数を表す単位 － rpm

ディスクの回転数は、店頭販売されている外付け HDD のパッケージや、ネットショップの仕様欄などに「rpm」という単位で書かれています。この「rpm」とは「Revolutions Per Minute (レボリューションズ パー ミニット)」の頭文字をとったもので、1分間あたりの回転回数を表します。

この値が高ければ高いほど、1分間にディスクが回転する回数が多い＝読み込み・書き込みの速度が速いということになり、rpmが高いハードディスクは読み書きの際のストレスを感じにくくなるというわけです。

#### 現在は 7,200rpm の外付けハードディスクが主流

2007年現在で販売されている外付けハードディスクの多くは4,200～7,200rpm（1分間に4,200回から7,200回ディスクが回転する）で、外付け HDD の売れ筋ランキングを見てみると 7,200rpm のものが主流となっているようです。

#### 外付け HDD、気になる寿命

大量のデータを保存できる外付けハードディスクですが、購入からしばらく経てば故障する確率も高くなり、せっかく保存しておいたデータがパー！なんてことになりかねません。つまりハードディスクというものは元来消耗品と心得るべきものなのです。

ハードディスクの寿命は2年～8年???

用状況・環境や製品の当たり外れなどにより快適に使える期間が短かったり長かったりするようです。

何年か経てば必ずとっていいほど故障はします。購入から数年経過しているようであれば、その外付けHDDの更なるバックアップすら考えておかねばならないのです。

特に非常に貴重なデータは、それだけを二重にUSBメモリーにバックアップしておくぐらいの心がけが必要でしょう。

## 失ったデータを復旧

壊れてしまったハードディスクに保存していたデータ。実はこれ、HDDが壊れた後でも復旧できるかもしれないんです。

「かもしれない」と書いたのは絶対復旧できるという保障はないから。そのため、バックアップをとっておくことはとても重要なんですが、故障の程度や部位によっては保存されていたデータを取り出すことができます。

ハードディスクが故障してしまった場合はまずメーカーに電話するなどして、修理可能かどうか確認するのが先になりますが、「故障を機にHDDを買い換えたい。でも、中のデータは取り出したい！」というときは、データを復旧しCD-ROMなどに焼いてくれるというサービスもあります。

日本データ復旧サービスセンターもそのようなサービスの提供を行う会社のひとつ。こちらの会社は、まず電話で状況を連絡（初期調査）しHDDを郵送、データ復旧できた場合はそのデータをCD-ROMや別のハードディスクにライティングして返却という流れになっています。

電話による初期調査費用、データ復旧できなかった場合の費用は無料とのことですので、どうしてもデータを取り出したい！という方はこのようなサービスを利用してもよろしいかと思います。

—おわり—